

研究者
紹介

私の研究

植物研究部 陸上植物研究グループ

樋口 正信 グループ長



『世界を知ることは日本を知ること』

外国に調査に行くと、見たことがあるコケと見慣れないコケがあることに気づきます。コケ植物は小さく、比較的容易に採集できることもあり、研究材料を得るために出かけた際も見つけたものはできる限りすべて採集して持ち帰ります。当然、標本作製には時間がかかりますが、野外で名前や所属の見当のつかなかったものを後で調べるのは調査の苦勞と引き換えになる充実した時間です。一般に、コケ植物は他の陸上植物であるシダ植物や種子植物に比べ、種の分布域が広いと言われます。もちろん、中には狭いものもあるので、「広域に分布する種の割合が高い」と言えばより事実に近いと思います。

最近では極東ロシア、韓国、中国、台湾などで調査を行っていますが、それはその地域のコケの実体をより良く知るためです。残念ながら、それらの地域にはコケ植物の研究者の数が少なく、まだ十分に調べられていません。将来を考え、調査はできるだけ現地の若い研究者と共同で行って

います。研究成果が出るには時間がかかりますが、そこからわかる一つのことはそれらの地域のコケを知ることにより、日本のコケの実体も明らかになることです。



台湾で確認したナンジャモンジャゴケ。日本で記載された後、隔離分布することがわかった。



台湾最高峰、玉山頂上。



極東ロシアで確認したチチブハイゴケ。日本固有とされていた。

研究者に
聞いてみました!

1) 専門は何ですか

コケ植物、特に蘚類が専門です。ハイゴケ科の分類学的研究をメインテーマにして、東アジア、ヒマラヤ地域、南太平洋地域のフロラ（植物相）も調べています。

2) これから取り組んでみたい研究は

標本からは知ることのできない、自然の中の生活の様子を多方面から調べたいですね。

3) 自身の研究内容と社会、一般との接点は

基礎的な研究は経済活動とはなかなか結び付きませんが、最近、取材が増えてきました。自然や未知の生物への関心の高まりがその理由ですが、これまで限られた範囲で共有されていた知識が情報化によりアクセスしやすくなったことがその元にあると思います。

4) 研究する上で一番大事だと思うことは何ですか

好奇心、企画力、根気などをバランス良く持つことだと思います。

